

第2回 今後の里海づくりのあり方検討会 議事要旨

日 時 令和7年1月15日（水）14:30～16:30
場 所 ラッセホール 5階 ハイビスカス
議 題 今後の里海づくりのあり方に関する提言（案）

議事概要

環境省 水・大気環境局 海洋環境課 水谷課長挨拶

本年も海洋環境保全行政の推進に、皆様ご指導ご鞭撻をいただきたく、引き続きお願ひ申し上げる。また委員、関係省庁、関係団体、オブザーバー参加と傍聴者として多数の方々に参加いただき感謝申し上げる。

豊かな海を目指して里海づくりに取り組んでいただいている中で、様々な課題を抱えている状況で、そのような意味でも多く関心を持っていただいていると感じている。

準備会議を経て、11月に第1回検討会を開催し、これまでの取組をレビューいただきながら、里海づくりのあり方についてご議論いただいた。今回は、前回のご意見踏まえ提言案を整理しており、建設的かつ忌憚ないご意見をいただきたい。

今後の里海づくりのあり方に関する提言（案）について

環境省・森川から資料「今後の里海づくりのあり方に関する提言（案）」について説明。

「1.はじめに」について

(内山座長) 「てにをは」などはどこまで指摘してよいか。例えば沿岸海域や沿岸域と文章中で記載が統一されていない点などは今後修正されていくということですか。

【環境省・森川】文言の整合性や表現の統一など、お気づきの点があれば指摘いただきたいが、基本的にはこちらで最終チェックする。

(森田委員) 「はじめに」の構成について、経緯が重点的に書いてあり、後半部分で気候変動や生物多様性、経済との関係が出てきてスコープが広くなっている。冒頭から要点や環境問題、国際動向との関係も記載があるとよいのではないか。現在の構成だと、最後まで読まないと国際動向含めて見えてこない。前半に記載があると、この検討会でのスコープも伝わりやすいのではないか。

(内山座長) 16行目以降で国際動向などを踏まえながら、「はじめに」の冒頭部分で問題点がある程度わかるように加筆するという提案ということで承知した。対応可能か。

【環境省・森川】まず国内施策として里海づくりを一層推進していくという観点で本提言をまとめていただきたいが、一方で国際動向は当然リンクしており、それにより国内施策が進む理由・位置付け、取組の価値評価にも繋がると理解。その観点がわかるような記載ぶりを検討する。

(吉田委員) 16行目以降について、里海は地域づくりにリンクしてすることはその通りで、そう思っているが、16~19行目の文章がすっきりしない。例えば担い手とは里海づくりの担い手なのか、或いはその地域の産業の担い手なのか、細かいところが気になった。

(内山座長) 14行目にも担い手と記載があるか、文言の調整をして読みやすい文章に修正する。

(岩井委員) 「はじめに」も含めて、過去の経緯などが水質に偏りすぎていなか。海の持つ自浄作用をもたらしている浅場等が失われることで水質汚濁負荷がさらに悪くなっていることは事実。要は場がなくなっていることも課題として、この里海づくり、「創出」につるながり、説得力が生まれると思われる。無くなった場を再び作ることが創出ということなので、ここで触れておくと全体的に話がすっきりするのではないか。

【環境省・森川】森田委員、吉田委員のご指摘、アドバイスも踏まえて、全体構成を直すにあたり、岩井委員の指摘された観点も含めて検討する。

(東委員) 1段落と2段落目の繋がりが分かりづらい。「課題が山積している」ということが2段落目の重要な部分と思うが、その間にに入る文章が浮いている気がする。もう1点大事なことは、最後の段落(24行目)で「環境省が推進すべき」という言葉について、言葉通り受け取るか、或いは他省庁、地方自治体と連携してなどの文言を加えるべきかご検討いただいた方がいいと思う。

【環境省・森川】提言は、検討会から環境省に対する提言になる。提言を踏まえて、環境省として具体的な施策を実行していくことになる。当然、関係団体、関係機関等と連携していくことになると思っており、提言上は一旦この記載ぶりとしたい。

(内山座長) おそらく大事なポイントだと思われる。この後の書きぶりでも含めて、誰に向けた文章なのかは、今説明があったように、あり方検討会が環境省に提言するという文章であり、環境省が推進すべきというところで進めると思われる。

「2. 経緯と課題 (1) 環境対策の変遷と現状」について

(吉田委員) 26行目の「里海づくり等によって再生・創出されたもの」が抽象的でわかりづらい。

(内山座長) もう少しわかりやすく調整するということで承った。この文言に近いが、35-36行目のロジックがよくわからなかったので見直していただきたい。「取り組む事例が122だったのが343に増加していることからも、沿岸海域における生態系が変化することがわかる」というのは繋がらない。

【環境省・森川】承知した。

(一見委員) 30-31行目「激甚な水質汚濁は改善してきたものの、かつての水質汚濁」と記載があるが、これは水質汚濁がまだ残っているという意味か。31行目に「磯焼けなどといった生態系の変化が生じてる」とあるので磯焼けに対して言及しているのであれば、(水質汚濁ではなく)むしろ貧栄養化と思った。

(岩井委員) 磯焼けと水質汚濁でピンとこない。直接的に水質が磯焼けを起こした原因のように読みとられ、誤解を与える可能性がある。

【環境省・森川】水質として改善してきているが、閉鎖性海域は底質環境が悪化していることを言いたい。それにより今の藻場等の環境がなかなか回復せず、気候変動による水温上昇と相まって悪化しているというところにも繋がるのではないかと。もしくは底質が悪化したままでいることで、かつて藻場が消失してしまった底質が改善されないままとなっており、藻場が今でも再生されていないことを伝えたいため、記述を調整する。

「2. 経緯と課題 (2) 政府系格闘における「里海」の位置づけ」について

(森田委員) P.3 の 2-3 行目で「政府が策定する計画等」とあるので、環境計画など限定的に書いたほうがいいのではないか。「里海」と書いてあっても、深く「里海」を扱っているもの、海に触れているだけの記載や生物多様性と海で「里海」としている記載もあり、それぞれの記載で温度差がかなりあると思われる。何となく海と生物多様性に少しでもかすりそうなものを全部入れたようにも感じる。生物多様性の指標として「里海」を入れているわけでもないと思われる。また、環境基本計画の中でもあまり記載がないのであれば、海について言及はあるものの「里海」の概念が十分に入っていないことを課題として挙げる方が次に繋がるような気がする。

(内山座長) 私が読む限りでは、森田先生ご指摘のように里海についてしばり扱っているもの、里海に関連すると思われる記載が混在していると思う。一方でしっかりと提言を読むと、明示的に里海について何か策定してのようなことが書かれており、文章全体として誤解はないと思うが、ご指摘のように(2)のリード文として「里海に関連する法律や計画などが策定されており、それぞれこのような重みがある」というまとめを付け加えるとよい。現状の記載で満遍なく計画等はカバーしているが、トーンの違いがわかりにくいという指摘と思う。

【環境省・森川】座長にまとめていただいた通り考えたい。項目出しレベルではないがまとめたほうがいいというご指摘と理解。関係省庁の取組として記載すべきものもあるかもしれない、整理、精査しつつ、森田委員のご指摘、座長の取りまとめ方針も踏まえてヘッダー部分の表現を考慮して記載するよう修正をさせていただく。

(森田委員) 地球温暖化計画についてはプロジェクトが走ってることくらいしか記載がなく、それぞれの計画で（里海について）どこまで明記があり、どのように定義されているのか。それぞれの計画中では定義も理解もバラバラの可能性があり、あまり共通認識が無いことが分かるかもしれないと思った。それぞれの計画の中での里海の概念、共通認識がおそらく無いのではないか。それぞれの計画でどのように里海を書いてあるかを見直していただきたい。気候変動についてはプロジェクトしか走っていないのであれば、里海に関する認識があるのか無いとかという点も、書く/書かないは別としても整理が必要。

(内山座長) ご指摘の通りで、それぞれの計画の中の「里海」の記載、概念、定義を整理するだけでなく、きちんと書かれていないのであれば、そこも踏まえて問題点とするということで、整理したほうがいいというご指摘と思う。ヘッダー部分を中心に、その点ができる限り反映させる対応をしたい。

(森本副座長) (2)の冒頭で「里海の概念が提唱されて以降」という記載があるが、「1.はじめに」のところで、里海の概念を述べておく必要があるのではないか。「1.はじめに」にも多少は書いてあるものの微妙。「1.はじめに」では手引書を引用して記載があり「2011年」となっているが、この章では「2007年」の話から始まっており、ズレと思われる。「里海とはこういうもの」ということをある程度述べたほうがわかりやすいと感じた。

(内山座長) ご指摘の通り里海とは、手引き書から始まっており、特に「1.はじめに」で簡単でいいので歴史的経緯、少なくとも2007年の環境立国戦略から出てきたものであるという経緯も多少追記していただいてもいいかもしれません。

【環境省・森川】先ほどの森田委員の意見も踏まえて、少しあかりやすく、かつ誤解のないよう、記述にしたい。

「2. 経緯と課題 (3) 環境省が取り組んできた「里海づくり」について」

(内山座長) ここは私が読んでも特に問題は感じなかつたので、特になければ先に進みたい。

「2. 経緯と課題 (4) 「里海づくり」における課題」について

(東 委員) P.6の8-9行目「現在の科学的知見を踏まえず、取組がなされていることにより」はどこまでかかるのか。移植したアマモが枯死・流出することは、必ずしもそれだけが原因ではなく、気候変動影響もあるので書き分けたほうがいいと思う。

(内山座長) 気候変動の話がこの箇所にはほとんど入ってないと思うので、少し追記、文言の調整をしていただけたらと思う。

(吉田委員) 森里川海の視点も踏まえて取り組むべきという理念は理解するが、里海の活動は点的な活動ではなく、例えば森、山の活動と横の連携をしてほしいという意味と捉えてよいのか。

【環境省・森川】一歩ずつ取り組むものと思っている。一足飛びにいきなり森里川海の視野も全部入れて、地域や関係する隣接地域も全て合意形成を取らないと里海づくりと言わない、ということではないと思っている。その地域で取り組む場合は、当然その海だけで成り立ってるわけではなく、隣接する海域、陸域からの物質循環、栄養塩類の供給等で成り立っているところに生態系が成り立っているものになる。この考え方を踏

まえた上で、どこまで現実的に実行できるのかを一步ずつ取り組んでいくことが基本スタンスで、理念を持っていただくことがポイントと思い、課題として挙げた。

(吉田委員) 点としての取組ではなく、海のある特定の場所で取り組みながらも、隣接する生態系との連関性を意識しながら活動を進めるべき、ということを理念として示されているという理解でよいか。活動する人たちにとっては少し難しいのではないかと思った。

【環境省・森川】ご指摘のとおりである一方、視野としては広く持っていただきたいことを述べたほうがいいと思い、入れたもの。

(内山座長) この提言は、あり方検討会から環境省に上梓する文章なので、環境省でこのような理念をしっかりと共有いただき、里海事業に反映させてほしい、理想論になるかもしれないが書き込む必要はあると思う。里海を点ではなく空間だと思えば、縦軸が流域、森里川海の繋がりで、横軸が湾灘間の海域スケールでの連携という話と思う。森里川海の話は環境省の他事業との関連もあり、里海は単体でやるわけではなく、環境省の大きなフレームの中で実施しているということが背景にあり、このような書きぶりとなっていると考える。

(岩井委員) P.6 の 22 行目「持続可能性に関する課題」について、お金と人がいれば何とかなるようにならぬので書き方を変えたほうがよいのではないか。持続性を担保するのは必ずしもお金と人だけではない。例えばお金がないとできない活動が本当にやるべき活動なのかどうかは、地域や状況によるところ。課題としている点は、おそらく大きな声が上がっているところがそうであって、本当に多くの課題は別のところにあると思う。以前に取られたアンケートの中にも（課題が）散りばめられていたと思うので、もう少し読み取っていただき、表現が偏らないようしていただけるとよい。

(内山座長) 経済面に偏った記述になってるという指摘で、文言調整で対応していきたい。

【環境省・森川】現場で里海づくりに取り組まれている岩井委員にはぜひアドバイスをいただきたいと思うので、個別にご相談させていただきたい。

(東 委 員) 提言 1 の最後に「調査研究が必要」と書かれているが、課題にも「調査研究」について入れていただくとよいと思う。特に先ほどの森里川海の繋がり、例えば施策の影響波及や、里海づくりの取組が湾全体の保全・再生にどう関わるのか、まだ科学的知見が乏しい現状があり、調査研究等が入ると話は繋がると思われる。

(内山座長) 実はそれ感じていたところで、ロジックとしては課題があり、それに対する提言という構造である必要があるので、提言で触れられていることは課題に上げる必要がある。論理構成はもう一度調整していきたいと思う。

<3. 今後の里海づくりのあり方に関する提言>

(岡田委員) P.7 の 22-23 行目の主体者が誰か。提言は環境省に向けたものなので環境省が主体と思

われるが、22行目の終わりの「3つの観点を特に意識して取り組むべきである」の主体が一致しない。修正するのであれば、「意識した活動を支援することが重要である」など、環境省に向けたメッセージに変えたほうがいいと思った。また、3つの観点すべてを満たす必要があるのかどうか、ここでの記載が曖昧と思った。私の考えとして、必ずしも3つを達成せずとも、3つの達成に向けて努力している活動であれば「里海」とみなし、環境省として積極的に支援することが重要、など、そのようなニュアンスが入れ込めないかと思った。

【環境省・森川】1点目のご指摘について、提言の位置付けを踏まえて表現を直したい。2点目のご意見について、まさに自然共生サイト、OECMの目標を達成、30by30目標を達成するために新しく作られた生物多様性増進法の考え方と同じようなご意見をいただいたと思っている。活動の結果、藻場・干潟等が保全・再生・創出されたという事実よりも、そこに向けて取り組む、活動が沿岸域で多くなされることが重要。もちろん成果も重要であるが、完璧に成り立つことをもって里海というよりも、そこに向かう活動が増えることが目的と思う。里海づくりの一環であると言えるようなニュアンスがあるといいというご指摘と理解した。

(岡田委員) 提言の中で3つの里海の理念が記載されているが、3つとも満たさなければならないとなかなか厳しい。今のご発言のように、それに対して努力している、志しているなどの活動まで含めると、広がりができるいいかなと思う。

(内山座長) 成果主義にするのか努力主義にするのかという話と思うが、「里海づくり」に対する提言として環境省の理念を3つにまとめたともので、岡田委員のご指摘がベースにあるということでしょうか。

【環境省・森川】基本的におっしゃる通り。それがわかるように記載する。

(一見委員) P. 7の9行目「開発、汚染、生物多様性の危機」という言葉に違和感はない。一方で「気候変動による海域環境の【悪化】といった危機」について、気候変動による海域環境はあくまでその環境変化に応答しているものであり、ここで悪化というのは、例えば魚介類の減少や貧酸素水塊の増加を指しているのかもしれないが違和感がある。気候変動による海域環境の変化に直面している、であればよいかもしれない。

(内山座長) 「悪化」ではなく「変化」の方が望ましいとのご指摘、そのように調整する。

(東 委 員) P.8 提言2について、6-8行目「適度に人の手が加わることを前提としている」と定義だが、直後の文章ではその記載を制約するようなものとなっていないか。言いたいことは分かるが、むしろ里海づくりは人が手を加えることで増進・促進する事業であり、そこが読めるようにして欲しい。また9-15行目について、生息場に特化しているが、やはり栄養塩類管理があるので、自律的に回復・存続できるような里海づくりではなく、むしろ積極的に環境を創出する、栄養塩の環境を創出するということも読める書きぶり

を加えていただければと思う。順応的管理のような文言が9-15行目では読めなかった。むしろ能動的に作るということを入れてもいいかと思った。

(内山座長)「適度に人の手が加わる」の文言、その次の段落に対して、環境を創出するということを表現として組み込むとのことで承知した。

(東 委員)里地、里海のようなイメージでの発言だった。地方自治体がやる栄養塩類管理も含めてもあるが、どちらかというと地域の取組、里地里山里海の物質循環も含めてイメージ。提言2が良好な海域環境の保全再生と一括りになっており、そこが読める書きぶりが欲しい。

【環境省・森川】物質循環という観点であれば、いわゆる森里、上流域の環境づくりの話と思う。海の中の手入れだけではなく、上流域、流域という視点で考え、保全・再生・創出活動をすることに触れるようにする。

(森田委員)提言3について、タイトルでは「利活用と好循環」とあり、生物多様性、人、モノ、サービスなどの中での里海の位置付けが記載されていると思ったが、読んでみると経済とは関係のない話（レクリエーション、祭り、食文化等）が出てきている。そのようなアウトプットでいいのか。環境基本計画では循環経済、地域資源の利活用と好循環など、経済と絡めた議論をしているが、提言では色々なものが盛り込まれており、もっと個人ベースで、経済と切り離して、人々の価値観を変えるぐらいのことをやろうとしているのか。一方でブルーカーボンは経済の話になっている。漁業、水産、サスティナブルシーフードなどの観点も重要なトピックと思うが、あまり十分に踏み込んでいない印象。結局、昔ながらの個人ができるペースでやるという話で終わりたいのかなとも読めた。第6次環境基本計画における経済面と提言がどう関わるかを書いたほうがいいのではないか。里海の観点で新しいところでもあり、新たなステークホルダーも巻き込んでいかないと解決できなくなっている。生物多様性の点でも民間セクターが入ってきているが、排除した感じがある。豊かな水辺、星空とかもいいが、それよりも例えば民間セクターが自然資本の価値を自分たちのビジネスの中に取り込まないといけないと指標化しているものを前面に出してきた方が、現実味のある提言になるのではないか。

【環境省・森川】ご指摘はごもっともと思うが、今回の提言の整理の中では、排除する、ここまでに留めたい、という思いがあるわけではない。令和の里海づくりのモデル事業でも多様な主体、ステークホルダーと連携して、現場での里海づくりに最新の国際動向や科学技術等を踏まえて、新しいアイディアで、里海づくり、海域環境の豊かな海の再生に繋がる取組がなされている。現場レベルではすごく進んでいると思う。提言では、かつての取組をやっていこうということではなく、書ききれていない状況。最終版取りまとめに向けて森田委員ともご相談させていただきながら、これから地域の新しい取組も進んでいくような里海づくりが推進できるような観点が伝わる表現ぶりについて、時間の範囲で充実できればと思う。

(内山座長) 提言3は地域創生に関わる大事な部分。地域の経済循環が入っているはずだが、ブレイクダウンした①～④は個人ベースの話になっているということが、ご指摘のポイントだと思う。カーボンクレジット、循環経済など、森田委員にもインプットをいただきながら、できる範囲で修正していくということで預からせていただく。

(内山座長) 提言2、P.8の4-5行目に「その地域に合った海域環境を創出していく」という記載があり、かつての海域環境が失われてる場合に、その地域に合った海域環境を創出していくことが求められると書いてあるが、すっきりしない。おそらく里海は、RestorationとPreservationのコンビネーションのような概念を海に適用したものと思っている。Restorationは「人間が手を加えて自然環境を回復させる」ことで、その中には修復と再現、創出がある。一方でRestorationの前段にあたるPreservationが保全で、良好な環境が現存してれば保全でいいと思われる。劣化した場合には、再生或いは修復という言葉がいいのかもしれない。創出の定義は「本来の自然の状態にとらわれずに創出していく」ということ。例として、ポートアイランドは元々海であり、新しい環境を創出していくイメージ。かつての環境が失われた場合に「創出」というのは違うように思う。無かったところに作るものもあり、半傾斜型防波堤を作り、そこにネットを貼り付けるっていうのも創出といえば創出と思われる。全くゼロだったところに新しい環境を作ることもあると思われる所以、文言を考えてほしい。

【環境省・森川】創出をする・るべき場所は、本来あるべきではない場所に創出するのではなく、開発等の行為により元々なかった場所で機械的/無機質な構造物が存在するだけでなく、自然生態系があるべき場所で創出することがあると思う。しかし、本来あるべきでない場所での創出はここでは含んでいない。ただ、何らかの開発行為や構造物設置等により創出することは、創出に該当すると思う。表現ぶりは、座長と相談させてほしい。

(岩井委員) 前回発言した「創出」という言葉は、無い状況から作り上げるもの。元々そのような場があり、ただその場が色々な事情でなくなってしまった。例えば埋立てにより、浅場があつたがなくなった、現状としてはないと。技術を適用して、磯的な生物共生護岸などに近い環境を作り出したというのは「創出」とは思う。おそらくこのような趣旨の発言と思われる。

(内山座長) 文言の問題と思われる所以検討いただきたい。

(岡田委員) 提言1、P.8の7行目「かつての里海は」について、里海の定義は7行目の「人手が加わることにより」という記載とするのか。プラスアルファで今回の提言を踏まえて、過去の定義に加えて里海とするのか。過去の里海の定義に対して今後どう定義が変わるのが全体として見えづらい。ビジュアル的に分かるように、箇条書きや四角囲みでも書いてあるとわかりやすい。カギカッコ内が大きな定義であり、重要項目として20-23行

目の3つ視点があるという位置付けと理解。

【環境省・森川】カギカッコ内を実現するために、3つの観点を推進、取組が行われるべきと
いうような関係性と思う。その部分が伝わるよう工夫したい。

(岩井委員) 提言4について、「地域の主体性を重んじて多様な主体の参加と連携」とあるが、P.6
の課題とリンクしづらい。書いてあることはその通りだが、突然出てきたように見える。
なぜ連携するのかを課題に書かないと、連携の必要性が見えてこない。里海づくり
が実現されたときの受益者がしっかり入るような考え方である必要があるので、読み取
れるようなものにしてほしい。

(内山座長) 1点目、課題と提言がしっかりと相合関係になるようロジックを作るという指摘とお
思われる。2点目について、海洋教育の話に繋がると思うが、次世代のフォロワー、人を
育てることが大事で、だから海洋リテラシー、教育が必要という話と思う。その辺も文
章をよりわかりやすくなるように修正する対応としたい。

【環境省・森川】後者の部分は提言3の教育に記述があるが、その記載とは異なるか。

(内山座長) 1点目、課題と提言がしっかりと相合関係になるようロジックを作るという指摘と思
われる。2点目について、海洋教育の話に繋がると思うが、次世代のフォロワー、人を育
てることが大事で、だから海洋リテラシー、教育が必要という話と思う。その辺も文章
をよりわかりやすくなるよう対応したい。

(岩井委員) 何をどう連携するのかがボヤっとしている。本当に実現させるために必要なことを書
くとよい。連携しないと里海づくりが進まないことは間違いないので、もう少し踏み込
んでもいいのでは。

【環境省・森川】岩井委員はまさに現場で実践されている方なので、記載ぶり等々をご相談し
ながら充実させたい。

(森本副座長) 提言1、P.7について、19行目まで色々述べられており、20行目以降のとこから以
上よりということで環境省が推進する里海づくりはこういうものであるべきという提言
が書かれる。そこまでは非常にすっきりしているが、25行目「なお～」からの記載は非
常に多くのことが書いてあり、すっきり頭の中に入ってこない20行目からの段落で「こ
ういう里海づくりをすべき」と提言してるが、その後に細かく、長く書いてる。読み手
は読み取れないと思った。例えば25行目以降は個別事項になるため、提言2に移すのは
どうか。

(内山座長) 25行目以降の文章は提言2以降に持っていく方がいいのかもしれない。

(内山座長) 提言1について、これは提言というより理念と指針を示しており、具体的には提言
2, 3, 4が実は提言1, 2, 3に相当するという論理構成になってると思う。そうすると1番の

扱いが何なのか、イントロのような文章になつてゐる。森本委員のご指摘のように25行目以降の部分は少しコンパクトにするか、提言2以降に入れ込む形で修正ということでどうか。

【環境省・森川】記載内容について特段違和感はないというコメントと思う。ただ記載する場所と、座長からの指摘で全体構成を、より読み手がわかりやすいように工夫したい。また、現状の提言1-4の内容は、はまるものもあれば、はまりづらいものもある。一方で提言の項目立てが細かすぎてもわかりづらくなると思われる。最終的には座長とも相談させていただきながら整理したい。

(東 委 員) P.7の25-28行目はどこにも当てはまらない感じがした。また、民間の取組促進が大事だと思う。提言4には「地域の自主性を重んじた」ということで様々なセクターが入るが、民間促進ということはあまり書いていない。もう少し改善が必要と感じた。

(内山座長) 森川補佐の方からの説明のとおり、構成を変更する方向で引き取らせていただいたい。

<4. おわりに>

(東 委 員) P.10の7行目の「期待する」ことについて、里海づくり推進で得られる期待される成果として、6行目のきれいで豊かな海を実現すると同時に地方創生に貢献するところは気候変動緩和にも貢献するので追記いただけたらと思う。

(内山座長) 気候変動がネガティブな要素という話は1段落に書いてあるが、2段目に気候変動緩和効果もあるとポジティブな面も入れたらどうかということを検討して調整したい。

以上